

## 平成19年度決算の概要について

平成20年6月19日  
(社)第二地方銀行協会

会員行の平成19年度決算(単体)の概要は以下のとおり。

(注)計数は平成20年3月末時点の会員行45行ベース。

### 1. 損益概況(業務純益:3,631億円、経常利益:1,853億円、当期純利益:889億円)

平成19年度決算における業務純益は、資金利益の減少(利鞘縮小による預貸金収支の悪化が主因)に加え、国債等関係損益の悪化や役務取引等利益の減少もあって減益(前年度比4.0%)となった。

経常利益は、業務純益が減益となったものの、個別貸倒引当金繰入等の与信費用の減少から増益(同+34.6%)となり、これを受けて当期純利益も大幅増益(同3.36倍)となった。

### 2. 業務純益の状況

#### (1) 資金利益(1兆458億円、前年度比194億円、1.8%)

資金利益は、前年度比1.8%減少して1兆458億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高(平残)は増加したものの、貸出金利回の改善幅が預金利回の上昇幅を下回ったことから同3.3%減少して8,404億円となった。

一方、有価証券利息配当金は、有価証券残高(平残)の増加および利回の上昇により同+4.1%増加して2,027億円となった。

#### (2) 役務取引等利益(932億円、前年度比97億円、9.5%)

役務取引等利益は、相場環境の悪化等から投信窓販業務および保険窓販業務に係る手数料収入が減少したことを主因に前年度比9.5%の減益となった。

#### (3) その他業務利益(252億円、前年度比164億円の悪化)

その他業務利益は、外国為替売買損益や国債等関係損益の悪化から252億円の損超と前年度比164億円の損超幅拡大となった。

#### (4) 経費（7,537 億円、前年度比 + 84 億円、+ 1.1%）

経費は、人件費が前年度並みとなったが、物件費が新規出店・店舗改修やソフトウェア購入等から増加したため、前年度比+1.1%増の 7,537 億円となった。

### 3 . 不良債権処理の状況

不良債権処理額は、一般貸倒引当金が戻入超に転じたことに加え、個別貸倒引当金繰入や債権売却損等の減少もあり前年度比 39.0%減の 1,872 億円となった。

この結果、金融再生法開示債権（破産更生等債権、危険債権、要管理債権）は、要管理債権の減少を主因に同 1.7%減少して 1 兆 8,959 億円となり、同開示債権の総与信額に占める割合は同 0.18%<sup>ホ</sup> 以下低下して 4.34%となった。

### 4 . 臨時損益の状況（ 1,774 億円、前年度比 + 627 億円の改善）

臨時損益は、株式等関係損益が減損処理の増加や売却益の減少から悪化した、与信関連費用の大幅減少を主因に前年度比 + 627 億円の改善となった。

### 5 . 単体自己資本比率（9.36%）

単体自己資本比率は、期間利益は増益となったものの、有価証券の評価差損が増加したこと等から前年度末比 0.25%<sup>ホ</sup> 以下低下して 9.36%となった。また、Tier 比率は、同 0.27%<sup>ホ</sup> 以下低下して 7.19%となった。

### 6 . 預金・貸出金（末残）

#### (1) 預金（55 兆 5,619 億円）

預金（末残）は、前年度末比 + 9,400 億円、+ 1.7%増加して、55 兆 5,619 億円となった。種類別にみると、要求払預金が減少の一方、定期性預金は増加した。この間、外貨預金は為替円高を背景に大幅増加となった。

#### (2) 貸出金（42 兆 9,309 億円）

貸出金（末残）は、前年度末比 + 9,931 億円、+ 2.4%増加して、42 兆 9,309 億円となった。

以 上